

リ5
4786
3

鶴原記卷下目録

一

元日栗井滿二番政丸事

黒川真道戲書

黒川真道

松平信宣守伝綱戸田龍門氏鉢治栗井下向事

并隣園より加納丸事

二

二月廿一日吉利より舟等の夜討よがり事

同月廿七日吉利より舟等城丸事

并根村源之右衛門先を重の事

山田右衛門作方死をも得一生を事

三

四

五

高
下

る　ての
六　寄食人數帰　陳之奉

寄の處人數帰陳之奉
付松金尾昂流刑乞奉

鴻臚小部卷下

元日為余九歲二年政之春

かくて光陰失れども。極月二十日間ありじ事
ゆふ。うるそひて、一ノ夜小まことしむ。
いづれのうちかまくま。二ノ夜は見ゆらざり
候。重ねの佐繩。戸田虎門氏能。かくの如き門下をも

敵とせめとくもしろ。まぐらのひじ。繩よふ
ゆまで。アナルモニシテ。ふうりゆくまく。アナルト
被ひぬれぬといひ。せらん。民とくくには勢ゆく。ま
ま一揆とせめとく。うちありとばやく。隠官し
て。わくまの北新のち。めり歎を嘆方を極心
不意八町も里バ。留年え日よ。想せめやうんとそ
まきこむ。れきか。諸將れ面く。ば謙り。いどもくわう
魚へ。せて。まづ。一用意とぞせられく。謙せ
の時。さうハ辰の一吉。とぞ。まつスヘキ。とく度大
事の先づけゆく。有る。お部も輔とくまく
うが。お金觸る法よも。お畜の時とぞまれ。祭よお靈

至下ともまざく除て用意をす。船を出でしよ
りひきとる。又うねりがれまく。浦軍より
まんじ、夜のうちに敵をせめやう。後隊よ移る
く上のまことべややあらとれども。まことに鶴鳴
れ。船をひきとせんれかんじあとうか。
敵の大まみれぬかり年下り。さうへと。うそ。誠
中れとうどもひきとせんれを。健うんせや
けある。一千ぢりうりつて。ゆこしてくふうと
うりりりて。澤雨のよとくうちかけられば。か
まはよとむじよとく。とも負死を負のしの
らあく。一千余人時れりよう。生々ればいとけ
くとく。久重奈内軍勢とくくとも
あく。有馬へ下向とた二ヶ。とくよ着船的
日とくぬうぶんと。核うる石。若きと多ひ。何事とも
寄よ端将ふしきくめくめくまから。肥前有馬の
一揆もう退浪れども。自他と勢じりて。せ
うぬよかくぬく伝聞。うそとくにあく。ま
きくさんぬうな日。該政とくどんとあらう
とく。浦邊鱗とく。浦。うそとく。寄よよく
ぬうひと。せれ人よ。うそとく。浦。うそとく
んとく。よとくには。該政とく。浦。うそとく。愚あ
ゆ。至謂のみ死の後黨。数万の薦し族ト
疎方を敵よ射褐ゆく。かくの近とく。詰り。し

る。農民となりへば、まことに今珍重され候政なり
也。やがて火とを敵すに糧道^{カミドリ}。後漢の助成
あり。殊よ一揆の内にうり勢。像よ發^{ハシム}として
す。まば被^{ハセ}是^{シテ}虚^{ヒトシ}敷^{スル}。味方^ハ敵^{アリ}
敵^{アリ}これ^ハ。騎^{アリ}十^{ハシム}猛^{タケシ}民^{ミン}と^{シテ}糧^{カミ}道^{ドリ}水^{ミズ}木^キ
由^{アリ}。かくしてとろ寶^{トロバウ}とりめり。とうされきよ誠
とせめじる。かく依^リらしくとべ。とく都^ハ前
小ひまくふく。諸^モ一^{ハシム}同^モ大^モより。一向ひづれと
せめり。は鐵^{アリ}射^{アリ}と鉢^{ハシマ}前^ハ穀^{カモ}郡^{ハシマ}れ寫^{スル}
る。まよ翁^モも^シく^シよもじわ^リ。囁^{ハシマ}うへて
河^ハとせり寄^テ。衝^ク矢刀^ハ向^カはそもん^ハ。かく人の
脛^ハうち。いき^{シテ}うをき^シしへき。それよ日^ハあ
城中^ハ死^ム。死^ム者^ハひ少^シ。に敗^ムかず。
乃^ハあゝぬき^ハけり。優^{ハシマ}し^シく^シの暗^{ハシマ}夜^{ハシマ}と
の^シみくひと。愈^{ハシマ}もひて退^{ハシマ}りと。必ずく^シ
きありよまかりと。寄^テま張^{ハシマ}勢^{ミツシ}と^{シテ}過^{ハシマ}
及^{ハシマ}る。城の^シからと。かく^シこれ^ハはあゆ^シと
さもゆく^シ。後漢の軍^{ハシマ}はくとも^シ。元^{ハシマ}三
れ駆^{ハシマ}ゆも^シり^シられ。端^{ハシマ}一^{ハシム}よ。大^モも^シ城^{ハシマ}
よ。とく^シとく^シ時^{ハシマ}と^{シテ}門^{ハシマ}を^{シテ}うりゆけ。さて竹
馬^{ハシマ}と^{シテ}小^モは^シき^シれ。も^シ城^{ハシマ}人^{ハシマ}またも^シ勢^{ハシマ}ども
一人も^シも^シぞう。ての^シと^{シテ}ゆ^シ身^{ハシマ}に長^{ハシマ}刀

大和大木こうりて。通すとて軍勢をみち
んふかまてとうちされば式ハト内もうかうれ
まへか。長刀大石本ようつる者。り千人
とふかどとよく。もうちもく。もよ。坂中よ
とほ郎とほりめ危士ともよかけまつ。さ
い姫川でよせくは人殺のみとけとせし。只一方
よりまかかくみも。ねくは用意は節あり
山大夫野う加勢の人数とさく。くとく。下
駄とあ。助成は勢とあ。の身。たまの替
五千余人のこううども。富とアシド。ゆせき
きハ。よせくとめ勢の軍兵を死とがほんじ。名を
ゆき。封印。対面。思定。おとてを輪に
済か。うりとうり。けふきとよれまく。か。会が
勢ハ一信。うりとけい。ゆ。とあまく。おもく。あ
かよそとの軍兵を近くせひき。うけて。多くび
らみ。う門あり。ま。ます。すが寄まれまく。せゆ
ばき。せんか勇。京折。とみゆく。ぞと
ふうか。枝く。肉腰。ばり。とみゆく。控。腰のわ
すりゆ。一添よとく。みゆく。持。き。さひととゆ
まく。布進の士卒と勇めんと。下か。一。路ひ
とく。みゆく。城中より。れ。の。もく。もく。
あ。あ。せ。路ひ。石。岩。十。度。松。平。神。三。角
を。や。ん。こ。く。か。ね。ん。と。お。き。ば。と。か。く。と
路ひ。か。さ。が。く。て。寄。よ。れ。軍。勢。ハ。と。防。が。く。を

き上使れ御下かをかうりしうが隊へをからば
又面くれ隊ダツヤ全をゆくは。思りうる勢の人々中
のひやううんふく。どうの的かをあらうけ
る。もかる瑞將のめんくはまくみをせん
とか。さめく人敵とのまんとて辰内封す
と。よせとあひの刻よひもあらたぬ。し
あ。宮殿へよもう。軍士れきてきくされば至
付くを詰ゆよへ。らう。けどもがくうらむ門
てがほせんもあくとあく。唱やよせられひき
の爲あうふ。追討せんとあくみくらます。が兵
の家へまくわ。かびと乱。大軍と。りくまをも
門くもくをくひとくと。はる見く。づ
十勝とものじる負報れりといもとべ。今は河
追う。うか。うきんとちいとれがほきも鳴と
志のめくととときこゆ。その日寄多にくもく
人數。まくとる忠臣家頼。の。討死れまく。九
才余人。を負れまく。八百七十五人。まく。無と
ア。うち死を負千石。鰐人。鰐の家頼れ人を
か。大願抱願まく。ひがんの肴ども。三百八十人
討死と。を負れまく。人臣より。難共かきあき
う。うち死を負二千五百よ人あり。松く。長川衆
軍十九人。まく。かう難人とも。討死を負三石
古七人。向ねく。右近多よほく。と。と。と。

蘿室人ルシテ人討死ヒタツシとばか方カタ國クニより上使ウエシ
つまし軍使ムツシのまつひ三十よ人討死ヒタツシと同多
員ヒサシの者ヒト五十よ人ヒトとまつひも日討
死ヒタツシとヒタツシ三千九百廿八人ヒトとまつひも
されたり。あ代アダは例アラ。まつてあ代アダよるかく
蘿室人ルシを食ヒムきをも。城中シヨウヂウ一揆イチギれを負ヒム死ヒタツシ人ヒト。正月
九十九クシキ人ヒトとまつヒタツシ人ヒトとふわハバが
板ハタケさんまれ三ミツよヨいイもモ。お詫ハガみの事モノへ云ヒムへう。これべ
城中シヨウヂウの底シタにシタかカくせの負ヒム勞ラウれ瓊ヨウとう
かカひヒく。度スル法ハシマかカくんで夜討ヨハタツシせセ。よせく乃
運ハシマりきキしめメすス。寄ヒタツシどドりリきキそソせセりリて
て事モノあきアキそソこコれレら。あ幕アマツ夜ヨハ事モノにあアよヨみ。
天アマ脣アマツ脚アマツとトババもモくクタタ。まつて蘿室ルシ祥ヨウれレ京キョウ

二 松平伊豆守佐綱 戸田左門氏鍵有内下向事
付 謂 隊 あり 加勢に事

さるやくにと使ひ人をかへてハ事人ありとそそ
乃翌日ニケル。肥後れち守。既前の方守。又モ此
人教きも。ソトモキトシトシくがきよ。言ひ、
ハ源かく。此ノアホト。所用代松平伊豆守佐綱。
戸田左門氏鍵。着船り。假軍陳と所用
じて。まことに是を毒勢あり。よくきいと
西ゆうり。人教きと。あをきよ。ひね。がくね
らう。うんきされば。肥後の方ちのうん數へり。
もうううのうあきば。細川肥後の毛利。

万三千と引率。正月三日れ曉天よ肥後西川庵
の津とお船し。同き日晩景よ肥前國別川
の浦へ着船と。原川城より至る。門一里の
所あり。細川人數を衆へ列りよ野陳と
つけ。かうとあまく。あよとせ。あびきし
きあり。と。城中のそと遊覧。りとけ
くとあとんや。寄よた老士をもひと。あ
して聖自己れ削ふ。人數と馬へと。そと衆れ敵を
乃さきよ。ねく長門の勝萩。門をよりまく
みく。人數と討せ。わうひと自負。わうひとけり。ハ
て長隊の勵き。不如意もきば。併きの門を
あり。大良と上裁。はく。近御。自代不
あまくに前位をされば。やりと細川肥後を
あての大軍をそぼとて。とあうち大手を切
えられ。細川光利。大手にさきをひそ。仕事
らきうち。かうとく。とく。とく。とく。とく。
忠高を。すまち。別義を。よ。依く。是と
馬へも除わう。龜前れ。も。護。も。田右衛門。也
田甲。斐。同市。正。一万八千よ人引率。し。主馬
代。ゆ。も。外。う。あり。鷹津人數を五六千。鷹津
下野。大將。づんゆく。主馬。也。と。底。かく
て。衆の。も。強敵。れ。し。在。津。

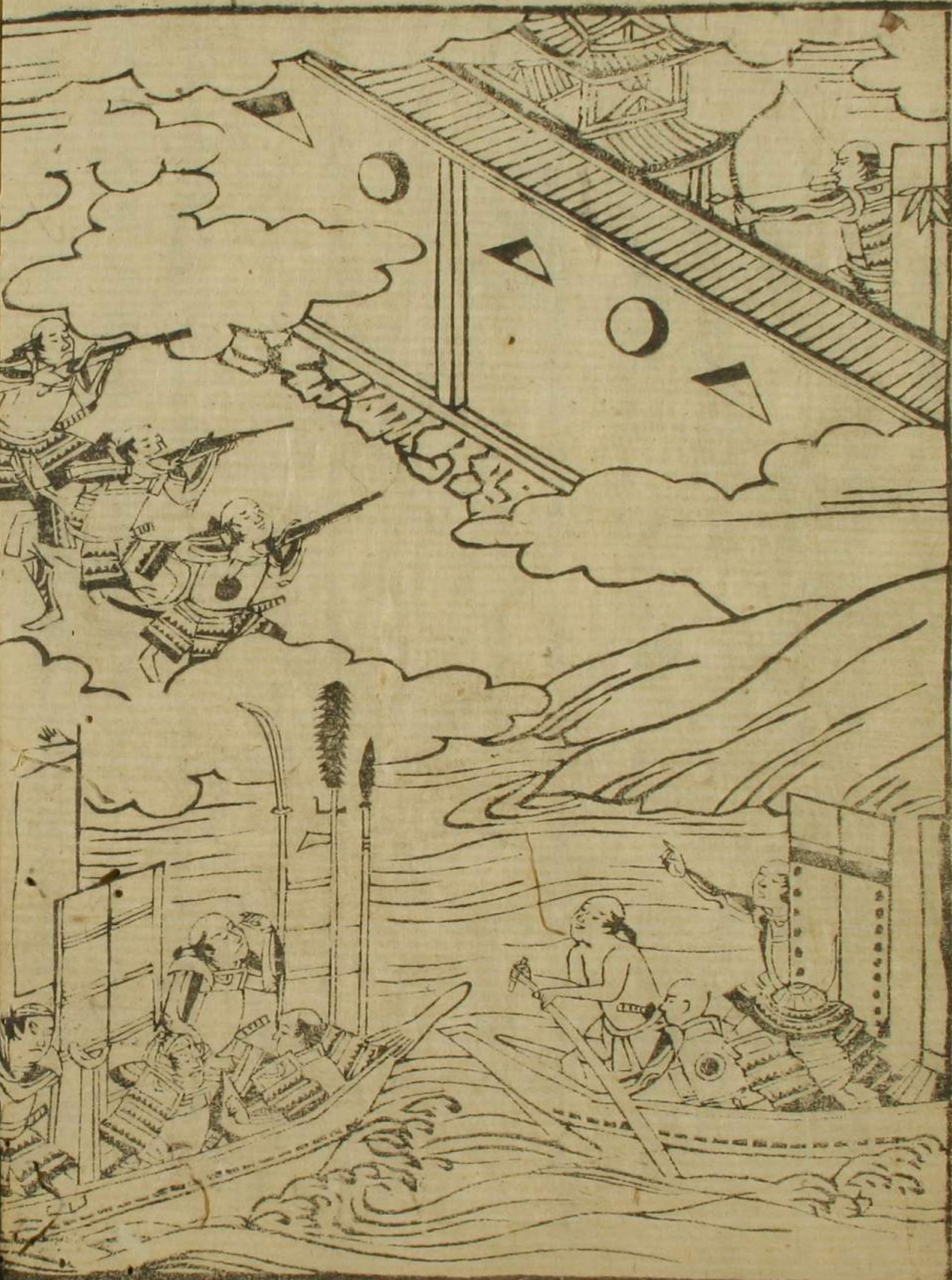
あり。九列の諸大名。何事も御ひくま鶴門。東
に敵へぞもれ。うある。まげ細川越中ちの忠利。
毛田右衛門虎馬之鍋鴻伝濃ち勝多。ふる毛
畜毛豊氏。立花龜道ちの義政。わ笠原比一薰
有馬左衛門佐。み野日向ち。何事も御下かと
あて。夜を日めけのく。肥前毛馬浦。今
やく除わろ。どうじてよそその除ゆる歎機
より東毛北をさりよ。とのく。陽をそ
居りき。さう。さう。大友東丸口。細川越中ちの忠利
もひ立花龜道ちの義政。そ次私く長門ち勝
家もひそゑくる毛馬豊氏。そ次鍋鴻伝濃ち
勝多至次小笠原比一薰。そ並し。半馬左衛門
主次毛馬。庫頭忠高。あはくまで。毛田右衛門
忠之持はれ。ひひづんと。くかく。ひどく。あり。
お野日列ハ。ももくからずんあり。されば除われ
あす。お。おもく。後凍の山。よひく。鴻
津人數ハ肥後勢。深屈つもり。諸よりうき。此
もまた。是もり。ひひづん。さて。御目代仔
重五。伝綱。と。う。め。何事も。上使の人。と。立花松
ぐん。と。ぞ。振らき。うち。もう。うして。御人
數ハ十二万五千。れはりり。と。そ。きこ。かく。と
在。除れ。諸將何事も。御目代の指図。と。まも。と
いふ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

をあきらめどものまよをよろこばれども參
れ老農會深くて謀智とありひ農事とあく
じあつて日教とくらゆ。わちとき任重き
りんく。時日れ諸將よしきにて宣ひ信綱いま
々軍事かへりやがてどもとどよ御下知を
蒙て。まさかじくひよどりどくおもん
ぞうりにり被そりとも思信綱よ任せしゆへ
一。さればそきづり所おれあらしき。上意の
ひねひとへ同意あはよ能く城のり停止せしむ
その意趣とくも別儀か。一揆は廻行も。
數万かあるひうる龜とてよ死を察としてか、
かとあらぬとくらに是事ありの軍事
ありけり。而してはいはよ兵農れどもせわ
そ並びよ承とへまく。ひよ心とやうまやう
ひく。敵れ行難と見るに是右近の隊とハあふ
ら。縁のうんありしゆ人。猶ありまよもの身へ乞ひ
城中ふ配あいしゆも。もやまととれ歎せめり。
一揆りこくふ利あと見て。まとくう人とか
りひのかどうか。あかく月くふ景をめざりか
らと一人を教せしゆ。アラサエサムカミ
し。よ意る紙り月くそのひねあり。清より
かとこののうきうちやうドナリヤトセも

三時歸へどのくへ令觸^{ヨシタク}トベ。さればやて
思ひこづくよ。あらんより竹魚^{タチツ}をあがとつまう。せ
ゆをこす。つき山^{タケヤマ}高櫓^{タカヤマ}かとゆも^{トコ}アラ
ハ高木^{タカキ}をもととくあらう。ベー。縫綱^{ツイナガ}をもと
もうとくさんじく。長濤^{ナガハシ}より唐船^{カラガマ}に立さ
う。きの藤^{タケ}をもとあらんだ今よ大石^{オオイシ}や天^{アメ}と
せ。ぐりん^{グリーン}いまといふく。とあしてぞありタク。さ
くらる輪滑^{ホウカ}何事^{ナニ}モ御日代^{ミタケ}つよまつ所。城
のあたりに二重三重^{ニシキ}よ大さくと廻りまわ
きも。山^{サン}せひろう竹^{タケ}魚^{タチツ}モとれ抜^{ハサフ}と
アミを絞^{スル}へと。敵國^{アヘン}へもよつてひととよ撃^ヒえ
う。よくめばうりあり海^{シマ}より肥後^{ヒガ}蘿前^{ロケイ}に
より。辛^{キナ}よまうれ番船^{ハゲンボウ}とつむを。海^{シマ}よりと大石^{オオイシ}を
たてて河^{カワ}をすまう。まちうけをねしき
ばや。城中は一揆^{イチギ}もとあまうよ。まちも見てて所を
う。お船^{ボウ}あり。ぐくやもひきん。數千^{スカウ}斬^{スル}の民^{ミン}
と。とくとく。食池^{エキチ}となり。お糸^{オソ}のとくとく。ようしらへて。あ
とく。物理^{リブリ}の施^シ者^{ハシナ}とく。がりととせん^{セン}の民^{ミン}を
失夫^{シフ}れ用^{カフ}か。やまくひのくやよつとうのまくらを
むす。ようう。巣^{スズ}巣^{スズ}や。とくどひ半^{ハーフ}金^{キン}。あくがん
ゆりくの巣^{スズ}巣^{スズ}。いつまぬめは。降れうらへよ。か
いれまゆ。鷹^{タカ}の弓^{タカ}弓^{タカ}。農人^{ノンジン}の蟹^{カニ}。あ
く。すりゆき。まきひき。が。浦^{ハマ}人^{ハマジン}不^ハ富^ハとひく。鳥^{トリ}を獲^{ハシム}。
ひく。例^{ハシム}。ハシム。まみの巣^{スズ}巣^{スズ}。まきひく。ハ
吉^{ヨシ}の吉^{ヨシ}の吉^{ヨシ}。よ。草^スと。んく。食^シき。と。

二月廿一日右利ち舟燈の夜詩よあ
一章

かくて城中へもうちら。今までハ鎮ゐの鴻大君のうりす。
くわづをされば。まやせあん今やのりんとまもじし
かどり。れんきよきと共へ。そそハ毛馬の停車
と。繪畫の政ひゆびぬと。城中へもうちら
心とひきうちるがくして毛馬あるやう。よもぎ
陽毛馬月毛馬とさぬがくと。海よ。毛馬
時角旗守持ての民首を近村は城のそひへ
くわづとくまんもひよ。くわづとくまんもひよ。
横のよじと立ちとせもしべき議をとくめ。共
報はよ。とのと見てまうかひよ。の寄も大軍



ありとそつこつよ日をあくまかば數万の者とも
しゆく餓死せんす。多日とくらう。主上後談
とくのひかもあくは多くあくよ。龜城の邊
とりどり。振あつまくハ數日とくらく次第亡と
ある様ももや兵敵を逸よおよりんと。あくうう
とくのん死ぬ者ども。ほほふ饑死せんより。つまよ
努力せ残る中よひかのよでくの兵よひひ。き
うくせんの務負みてハ。身方のつづくわたりか
たと西ふきのくいあうてと。とくつまよけ
まうすと。失敗をとくすひされば首頭がち
ひきりのと。因ドク。中たまにれ体意。P.
次や。時貞比吉義。りもなりされば民家か
軍を。去年娘をめびらかす。秋深きまば。盡
走れまじげうひよ下ともかみかほる。あんづか
きよへんをかんぐへと。せりへれりと。儀
中れ者ともあひかと。目伏さまを。あん
寄多の夫。うがえりあらゆどてを。ありやせん
愚老ハ別處かと。ものくはぎくまべと。也
同。うそよううられひやうで。うそりくろり。あく
ミ。あよ時貞思案よいもく。夜すれ儀太よよ
正ひまん。細川人教もあげくもすうと。ほま。う
くまくらむ。うあきば。うもか人教と。もんじ
くる立花持にハからまばく。あくダ錫鷦等
は黒田。よかく人教とひとかみを。わく。ど行

もあだたてたり。ぢんごやくもふかとひけうせ。その
や、とお馬よこしをめぐらす。旗本よりとまれる人をわざ
とせば。まともとよあき。寄兵いんともみあわすとさむ
さあらじん。受け死。武ハ國くにさうりして。お旗も
えびかかしまとまへド。さあんよおめとハ。まきく
の軍兵ぐんのまとほ。神かみ激げき風ふともふ。まきく
あまく。かくあくがうんよのとく。まきくともを
んれらふ。返かへ教おきせんすうう。ういか。まくばたと
はまもを。は寄よりも一陣せん破はじきてハ。まんとく海
川かわかド。ともふあく。まわづ。寄よりもとくと
狼ろう羆めい鈴れいうともう。大石ゆ。夫夫ふふと。ま
ふ旗はた陣じんへうららま。ハ。日本國にっぽんが。りせうりとくも。政
事じごと。まくとく。まくとく。事じごと。まくとく。まくとく。
皆みなと。されば。列座れつざの者ものも。是これと。まくとく。まくとく。まくとく。
幽敷ゆふて。と。ゆと。ひよまの。者ものハ。あくらき。まくとく。まくとく。
きの。まの。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
乎人ひとと。三。年。よ。と。け。乎人ひとと。芦。據。忠。三。勝。布。津。
村代。右。幕。ば。ぬ。人。よ。も。こ。づ。金。セ。嘉。田。義。前。多。い。ご
き。も。し。る。ま。と。え。あ。ま。よ。云。れ。よ。ハ。六。万。よ。人。お
も。く。寺。次。ま。と。し。く。ひ。又。千。三。万。セ。よ。織
三。平。千。三。万。論。五。ち。を。舊。あ。人。よ。も。こ。づ。金。セ。獨。酒。よ
へ。そ。と。し。く。ひ。う。ば。あ。へ。よ。と。け。と。と。ま。い。よ。織
三。平。よ。五。万。よ。人。と。た。今。セ。や。矢。金。ま。く。と。と
ま。も。と。セ。ひ。く。へ。よ。矢。金。ま。く。と。と。ま。い。よ。織

もじもじと同くあく病五郎を廻よハ百人ともまぐ
を是ハ一向夜討れ行とそうと努ヘテアシニ
ゆ。ハ獨鴻馬田村に。所あひ寄。ゆきうちかんふ
をもどり。城守よりもう少ひ里鶴をとく。前半
を諸人のひきんよ。一發夜うちよ。前あらがさ
だめは口へり。あじとをかかととをひあり。され
て後ハ毎月ち一日れ夜事。じうりぬとあま。日
刺。ともあれ奴くらう。夜よ五。を金。二年ハ千三百
とあく。今獨鴻をぞと。よをこう。獨鴻至夜
は付寄。數千人の者どもあり。ひ寄ざる。も
り。ば。あ。と。さ。と。敵姫。せうん。と。ど。ち。ひ。ま。よ。た
を行。お。祀。大。せ。い。わ。と。そ。ら。ん。あ。よ。ま。う。ち。も。ぬ
。す。書。よ。り。の。と。な。が。つ。と。あ。る。。難。と。く。ど。も。る。り
是。を見。と。廢。半。は。破。壊。と。も。多。内。き。れ。う。あ。わ
り。と。二。万。よ。人。の。内。わ。く。一。夜。よ。内。と。ま。よ
ね。え。と。あ。き。え。れ。ぞ。内。ら。ら。と。あ。ん。ぎ。り。と。ま。よ
も。ひ。じ。き。を。も。う。り。よ。り。され。もし。獨。鴻。や。鶴。れ。生。を
つ。ど。も。數。千。人。長。合。よ。ま。と。せ。ん。と。ま。よ
き。が。夜。討。の。う。う。ら。ゆ。よ。人。付。捕。奴。り。け。ど。ら。と。せ。せ
が。ま。ぬ。と。き。こ。ゆ。獨。鴻。を。鶴。れ。ま。よ。ひ。よ。の。秀。鴻
馬。田。村。石。舟。か。右。馬。ば。左。人。付。捕。と。と。う。り。ち。る
を。か。と。負。れ。侍。ち。よ。今。下。く。足。輕。立。よ。ま。負。財
八十。よ。人。と。ま。て。き。ま。と。あ。ま。去。れ。ハ。六。万。よ。人

あらぐく。唐津陣へ相手せん。小佐寄。一。竹
把ともとひき。一。ナホ。本隊とう。あづけ。う
空手。もとひき。一。ナホ。りつけ。一。家よまく。くまく。あ
大將。三宅恭右衛門。ば由をこう。付て。とりや夜
うちとう。長刀。もとひき。まの内。もとひき。あ
ナホ。新郎。みか。馬鹿。後。又。ハ祖。母。ども。あと。う。じ
もせひ。前後。と。う。て。戦。一。グ。あ。ゲ。ひ。よ。う
け。う。ま。ほ。ま。と。ま。き。ひ。き。勧。あり。り。と。う。を
寄。する。ま。う。と。ま。き。ひ。き。勧。あり。り。と。う。を
ふ。お。ま。う。と。ま。き。ひ。き。勧。あり。り。と。う。を
て。け。う。と。ま。き。ひ。き。勧。あり。り。と。う。を
せ。ま。か。の。く。そ。ま。え。う。り。それ。ど。も。三宅恭右衛門
筋骨。と。碑。死。と。は。時。と。勧。され。ば。三宅。自身。筋骨
力。ゆ。く。有利。と。母。筋骨。が。と。み。れ。か。へ。逃。拂。と。ひ。う。い
し。く。あ。き。勧。う。り。が。か。ま。び。一。き。振。舞。ゆ
大將。北藤。有鶴。の。三。ケ。所。ま。き。伏。と。義。う。り。と。樂。づ
さ。れ。侍。ゆ。り。山。源。左。衛。門。池。田。新。助。松。下。守。之。恩。
若。湯。八。左。衛。門。は。等。に。人。れ。者。ど。も。ハ。皆。討。死。と。う。ば
き。う。と。不。免。負。北。士。卒。ど。も。ち。ほ。ん。と。や。く。く。さ
れ。ど。も。夜。討。れ。有利。の。丹。三。十。五。人。け。う。り。ぬ。と。中
三。人。ハ。生。捕。う。り。た。ゆ。く。一。彼。三。宅。恭。右。衛。門。鴻。あ。よ
て。れ。ち。ち。よ。く。と。づ。今。寢。あ。く。と。雪。う。と。と。き。く。人
こ。と。に。言。合。つ。う。と。て。黒。田。恭。右。衛。門。役。忠。え。け。持。口。ふ

ハ忠三房。代左衛千百人と引率一一百よどりと押
寄す。毛利忠之持に付侍奉。馬田監物大綱
あらわしが。毎夜物の用心より悪化者と十より
底邊よやくとそねとせへーぐ。伴の惡化拘束
ども。夜討ひやうと先あら。行良把裏れ數子
人堅固よ振ふりし士卒とも。おほきじゆくよざ
ほりとひんと仕事りと。監掲いつゝ御用めひ
うれしきへ家ありとぞ。伏せ人殺とかまつ申
へまかせ。毛利は舟の船内ごと。行良把裏へ
乗下りて。ち勢の兵げん力きよせんどう持
て。ちづまりぬくひへあり。りとすり寄るよ
うこと。ありひまくまう健民うきり。手よん
同よどりと寄どそ竹を祀どもさくひあ
ひくとけ破り。あらまもんてきうてつり。大將
分とと同よび。監掲うよへ面をゆくがから
と。二部まで三門とゆきくづく。三部のゆくぶを
附よ毛利の丹れでのもうかく。備前馬田監物
頭と丸をよせねうき。そのよしりありよる。
毛利園田作たる傍よとろわい。毛のねれひり
ゆく。ば肉と骨のうらら。今いかじとやおりひりん。
體勢一揆れを中よ。面を披じと付死寢ごと思
て定して。三門とゆきくからえられべ。是と見くお停
人。小河継駿助。嘗勤至房。郡賄太主。新見志野
を務。松山又ち主。毛利を毛利侍寄焉。されりと

侍さむらい一き侍さむらいとも五六十。一都いづより内うちとけのくからうも
きさべさとくと小兵こへいをきくうらをがきよべとやうわ
次つぎして。くらのぶれちうどく。等おなうくよ引ひよくも。
されども夜よ計けいれ吉利よきと丹に百ひゃくよ人ひと討うぬ。モ申
生なま捕つか十七じゅうしち人ひと。都つう令忠めいちゆう之の見み守まつ三人さんのの小こささ一揆いつ
百二十三ひゃくに十三人ひとととそゆへき。さて又忠また之の豪ご頼ら死し
死しれ侍さむらいよ。まづ門門より田監物たんげきぶつをす。要いそ田依たより鷹たか。わ伴はん
者ものもみか新しん月つきあ。扇おうぎ兵へい湯ゆ松まつ山さん又また。而ひて
市正家いちまさけ此こ事ことと始はじとして。次つぎと侍さむらい七しち八は人ひと
討うぬと。又負おけ侍さむらいハ廿に五ご人ひとととそ。被あじてそ
被あ殺さつ前まへよ。討うぬ又負おけ雜兵ざくへい共とも六十ろくじゆ人ひとととそ
悶もん二百五十八ひゃくごじゅうはち生いき。二十に四よ人ひとととそ。而ひて
是これよ。同どうととそ。用心おんねんまかまか。うり。もと。い。ま
後あと一揆いつ代だい金きん川かわも。度どううりゆも。かうり
今いま



二月廿七日吉利又丹波守城之奉
并根村源兵衛先主の奉

かひかひどひ行らゆりとをまくとひう
ひうりとをあうとひよ。ぬ一ぎに一揆義城
とゆへとひみくとひよ。鷦鷯法徳ち勝
れまに吉利五丹等。か誠とうらへかきう
一揆のゆりと。娘のわどハ用心とをもさび
をもさく。常ハ隊中よりうりとをもさびと
をばやくハ。鷦鷯染山よりうれ丈石火夫や
ミタん。一揆のゆりと。ばが丸へハ種業代警固
とえしもく見へあり。ふうればやうくろのとけ
ういゆどやてと鐵門ひと見へどある

る勝兵かのわぬとうり。行より祀と付させ。てりと
うきびくうせあは職中せうらうらへど
タてほそりん。至る變よゑして只一つにのり
まんと討廻と。御目代よ。わぬれ仕事と
のぞえられぬやうやからひきん。ま月廿七日れ年
比剣はうりよ。おぬへ仕寄と付。うらうが。あさん
一揆打つて。あん時。用心や。と。うん。奥足。走
者三百。ゆき。行より祀裏よ。くも。うらう。徳よ
乃人教ば由と見。何。こり。いふ。獨鴻と。そ。徳よ
袖で。さきのりと。ひと見。ひとりと。諸軍勢か
つちうと。事。一ひめを。と。じ。止。づ。御。廻。き。る。け
き。常。そ。か。ま。所。軍。法。り。と。ひ。く。て。時。と。う
かふと。し。済。よ。獨鴻と。出。九。へ。祭。祀。と。付。用。ひ
れ。あ。と。ど。の。く。け。え。き。され。ば。と。せ。て。何。事。を
鳴。と。前。あ。う。か。く。て。獨鴻。人。教。あ。ぬ。へ。徳。と。ほ.
ほ。と。見。く。そ。持。た。一。揆。う。し。教。千。人。う。り。よ。り。
石。て。角。もう。と。そ。サ。ク。う。勝。兵。人。教。と。れ。く。う
用。意。れ。す。あ。き。ば。淡。炮。ど。く。め。よ。仕。寄。う。げ。ふ。ゆ
獨。鴻。多。勝。と。そ。と。よ。小。と。じ。一。揆。う。と。と。う
ら。う。う。め。う。る。時。よ。獨。鴻。よ。れ。御。目。付。神。樂。飛。彈。ち。る
れ。み。鳥。鹿。鳴。佐。年。十。七。歳。い。ま。と。よ。く。氏。都
内。る。あ。き。が。御。軍。法。と。そ。と。よ。く。ま。と。ど。の。う。し
え。と。量。見。し。と。か。と。わ。と。じ。れ。者。と。ひ。ま
り。二。れ。え。ペ。り。ぬ。よ。へ。う。う。

落後ひよ。後。さん。く。射。ま。次。き。が。矢。前。み。す
も。ぐ。人。を。と。う。ひ。う。じ。く。ー。は。よ。左。右。勝。門
は。と。二。れ。か。の。う。ら。と。柔。め。微。一。處。の。く。林。原。左。右
勝。門。と。か。う。も。あ。よ。君。の。き。き。く。ね。ぞ。觀。又。飛。彈。
ま。是。と。見。く。御。軍。活。く。の。ひ。あ。う。愚。鳥。を。う
と。射。せ。そ。へ。後。蒙。つ。内。と。期。と。べ。と。獨。豫。る。く。や
け。と。參。の。こ。き。され。ば。後。除。よ。ほ。ー。獨。修。人。殺。上。使。付
せ。き。こ。ん。あ。と。と。れ。い。と。く。ち。あ。と。こ。く。の。勝。中。れ
一。極。驚。の。而。あ。り。教。月。の。龜。藏。朝。暮。れ。と。引。し
す。君。あ。れ。あ。ま。自。き。へ。び。る。ふ。る。す。中。の。驚。と。不
飢。よ。と。と。び。る。に。う。き。と。お。れ。き。と。が。民。藏。よ
疲。頬。の。て。い。か。く。疾。と。と。お。れ。き。と。も。角。う
海。邊。よ。思。か。浦。よ。う。と。と。し。う。海。内。だ。と。も。角。う
正。と。う。と。と。ぞ。吹。へ。一。され。バ。禍。鴻。也。丸。へ。仕。寄。付
給。と。ハ。モ。ー。き。う。餘。黨。を。え。と。め。と。瑞。ま。ハ。之。内
う。う。り。は。更。白。畫。小。盒。し。の。寄。せ。ん。と。う。う。と。と
ゆ。ん。強。敵。と。か。内。て。神。原。又。あ。と。と。して。や。ー。と。禍
鴻。人。殺。う。と。城。中。へ。か。り。こ。み。も。う。ろ。く。矢。矢。と。ふ
け。され。が。二。代。九。の。太。ま。に。か。と。み。と。も。小。盒。き。ま。る。
是。と。見。く。諸。主。せ。ん。人。と。禍。鴻。よ。と。き。の。り。せ。う。せ。ん
ぐ。う。と。ゆ。う。の。み。と。そ。の。り。う。う。こ。く。る。ま。と。と。よ。う。と
ま。う。れ。城。あ。り。う。き。バ。總。軍。は。寄。ま。よ。か。う。ら。う。を。事
と。も。人。お。ね。う。ば。も。う。ん。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と
の。う。う。れ。か。か。肉。よ。大。き。な。と。き。て。細。り。熱。中。で。忠。利。

敵方八千人軍兵とも持てぬを三丸ノトトにアリ
破り。勧農^のこううを付して寒正とてかゝる人衆の事
かよは頸^{くび}をまよひよあよびも見ゆきこゑ
リ。二丸内もまよひよこうかけたりよりみてぞ
せあふとも縦^{たて}の人数を二の丸二丸きしへどりこみ
是をそく^トにちへりんとすみられども、志
利^の丹教千人二丸九二丸きしへわわく、さりも
すゆうとうりて、家とひだり、城^{しろ}とくされど
さとが縦^{たて}の大人教押よせうちとつとも城戸口
破りかくして時とうのとくよ細川人教後れえ
ままとけゆがり。勧農^の者どもとつとく
きりと。斬^つ細川氏風^{うじかぜ}とく、小火とけ
火^ひとちやせあられば城中^{じゆう}一發^{いつ}ともやり
も寄ぬ後^{うし}より破りにられば前後^{まへうし}の寄^よ
わぐんで、さうせんの力をほきともく。どうせん
うて見ゆ^む。がくともかかは^ハ、ややもひな
ん。おがんをかきてあげるみこ^ク細川人教^を
やくりまう。 perché^をへせあうけ。ひそとも一揆^一、
や、討^うそ^と即時^よ本丸へ衆入^{いり}んと仕^あうけ
ぞ、本丸^を内^にれ^はうとをからうけおはす^を、夜^よを
付^{つけ}おげらもく。ゆう長刀^とうり持^てが丸と
ねし勢^しと。安^と最^{さい}朝^と姫^{ひめ}せざ^されば細川
人、敵^ハ後^{うし}よ。憲^{けん}利^り又^はよ^は本丸軍奉行^よ。馬場^{ばば}

卷之三

平三

所へあるとまじて居うちとけふが時ふ
うつとのんとつ、松村源太左衛門、わば
きくもよやく本丸にうけうちまわなを
ひとごんのうそかひりと二人ともよ一度
いゆれひづれぬをもものうそとるから
そくひもあくたとそりけふととせし
そくあくのうそとのうそ
刀とくあくのうそとのうそ
みくさんでうぐもとととくそりけ
五つとくらうそとれすと細川
のさんとおをとまうのうそとく、大河
とくまつとれのとくとくとくとくと
下。さてかくめよ玉田右衛門の佐忠之、大江口代官
のまうけあんあるりこれぞ。而もも佐壽
とくく敷付うそとく車もあく。時節とくま
ちーぢりか。偏まれ様子と見付、是を敵方
人の者ども。大江口、松山あま、奉行代官川を
うらとくとくとくとくとくとくとくと
きくらざれども。お勢ハけりきよう。もと幕天よ
やびぬまばらう。そ夜ハ大はの丸よまくへ
路ふ酒鶴人數を上使榊原とくきをもとして。二
丸破れとばかりうども二丸を二の城戸やぶ戰
まよと小拂かりさればかの城戸によく聞とく。日
暮の間の日をやねへゑのう。どぶぬれあ

又擱うせ。主従とアラムのアラムモト主従松繁
寺は。見る。や萬葉黨。水野日別。見る。左衛門の作
と。人。鞍何生も面くの持口。又ハかる。ニシ
ト。よう。あくれを。よ。筋と。ト。ト。のり
ニ。粉骨と研。ト。ト。き。されども。皆。か。内。六
やり。ひ。より。く。筋。よ。二。れ。内。ヘ。シ。う。ぢん
う。り。ぬ。ま。そ。じ。か。あ。て。れ。大。將。正。田。右。唐。依。忠。三
毛。彦。ハ。太。公。の。毛。よ。き。へ。筋。ひ。ア。ゲ。家。頼。の。武。士
ど。も。近。付。ヤ。そ。そ。セ。ビ。ロ。ヨ。ン。ア。リ。ソ。ル。法。人。眼。前。
き。り。と。り。が。も。今。日。左。内。と。あ。マ。ヨ。ン。シ。し。解
ん。る。星。聖。天。ハ。肉。力。ま。内。き。う。げ。て。モ。守。サ。良
め。よ。窮。命。一。セ。バ。需。オ。該。モ。内。ま。ん。と。わ。す。る。り。
あ。よ。う。詰。モ。一。れ。者。ど。も。ハ。膳。供。セ。ア。よ。と。の。キ。ハ
家。西。是。田。義。作。ミ。ミ。モ。ド。中。澤。朝。モ。ア。ミ。ギ。モ。ム。ハ
恩。私。モ。ア。ミ。ヒ。ト。多。テ。御。ま。キ。ト。付。ア。教。ハ。恩。ア。モ
瑞。率。ト。ね。ま。ん。で。あ。ま。ん。と。も。う。小。室。う。り。と。れ
忠。え。ほ。レ。ー。き。強。ハ。さ。わ。バ。ミ。カ。ト。ツ。セ。と。と。ア。志
田。義。作。父。ア。モ。ア。ウ。モ。ア。ミ。カ。ト。ツ。セ。と。と。ア。志
士。か。モ。ト。き。人。是。ト。ア。ト。ド。タ。チ。ボ。ト。聖。日。二。十。八。日。ア
ケ。ガ。の。ア。リ。流。年。一。回。ア。ス。モ。ア。リ。セ。本。丸。モ。ミ。ア
ン。ト。モ。ア。ミ。ク。レ。ジ。モ。吉。利。ト。ア。丹。華。モ。本。丸。モ。ミ。ア
豊。國。モ。ア。リ。内。大。石。大。木。モ。ア。ケ。リ。ケ。ー。キ。ハ
内。ア。ア。キ。ハ。總。モ。長。刀。ト。モ。ア。リ。モ。ア。リ。ア。リ。キ。ハ
モ。ア。モ。ア。セ。ア。ド。ト。家。代。セ。ア。ン。モ。ア。戦。奴。寄。モ。ア

軍勢ハまことに多くあり後石垣とあどりあり
面もあくばれかとりへどもだれも多勢れ風見
う。上より風下へ大内太木をあげられ。すへ吉
萬ふやと付。逃るやうにぬせざれが勢力
け寄る心強ハのまよし。日もあき戦事するれ
バ心力をひき。もれくれ武士もうちきりき。さき
どものものまたは。ま田忠ら持てようま田義作
同三尤湯つ文子とまき。うけりよて。殺力士卒
残兵と駆駆詮れといあきは。ういうもづくぬ
せく。そのまも忠之人數新もと入船くせあも
まきが。ま田も本丸もさき。うひま田もととまき
へき。あらうとハリ。がれ。がれ。ま田。ま田。と
比翼天。細川肥後ちれ。まゆり。矢矢。まひ。軍
そそき。うか。ふ。り。う。飛。も。げ。し。く。て。數
れ。転。脛。か。み。と。そ。と。よ。脣。も。あ。い。く。流。まれ。人
め。う。み。總。軍。勢。一。同。よ。勝。時。う。こ。う。と。こ。ふ
ひ。勤。民。の。者。ど。も。と。ば。う。も。と。そ。ほ。き。と。こ。よ。よ。
い。ま。う。い。ま。ん。で。せ。あ。れ。が。う。を。最。期。の。戦。な
ま。老。若。男。女。よ。ゆ。う。ま。で。今。口。と。か。う。り。と。ぬ。勢
き。う。れ。ど。も。日。暮。遠。矢。の。利。運。よ。ね。遠。し。と。弓。う
太。刀。食。ひ。す。か。き。ば。猛。威。の。寄。ま。小。き。と。矢。ト
豪。り。と。弓。と。者。ど。も。と。弓。と。弓。と。弓。と。弓。と。弓。

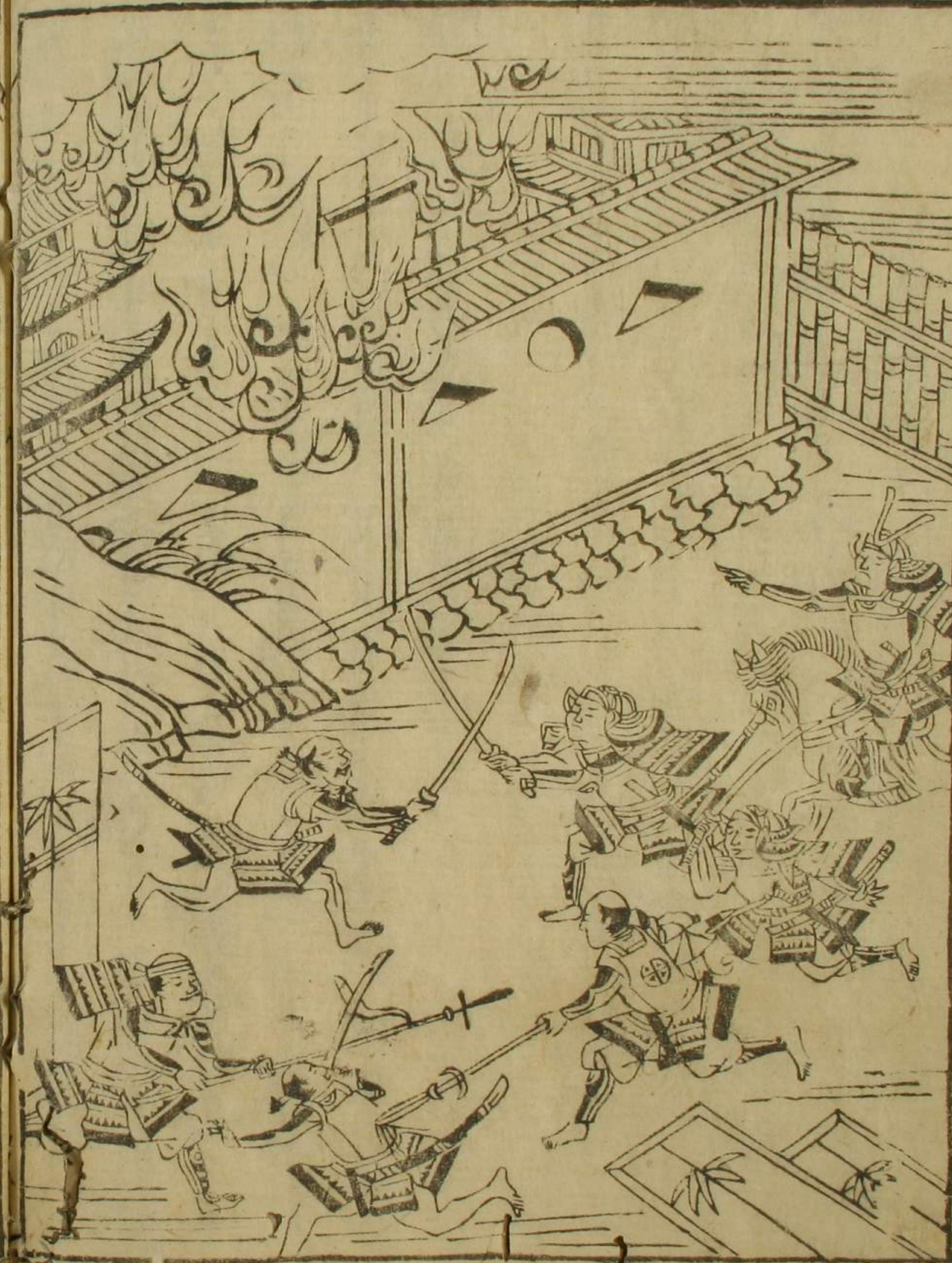
身のまゝと。やのとよしゆんで。寄りぬれ面に見入
されば。今ハかうとやおりひくん。或へゆた中へ飛入式
ハ討死仕たり。一揆の大將足利と。細川趣味も
忠利れ大人。殊の仇を讐ふと。者討ちり。と。そ
きえす。その日廿八日。午後刻。ぞうりよへる。と
そはあだ城と。アハ。じつより築城。ごび
きりと。ともども。とやもく。唐吉も。例。と。更
と。食を。まろ。まろ。もひひあき。原の城。歎味
於此。骸骨山と。築。こう。が。ご。死。とう。所。内
く。人を。殺す。事。よ。む。ま。で。二。方。七。八。千。人。も。あ
らん。と。こ。き。え。ま。され。もし。あ。が。ん。か。倒
れ。が。も。く。都。合。い。か。き。ぎ。り。ま。る。敵。方。が。寄。ま。る。
死。と。う。渾。ん。ド。名。と。靈。ド。ま。う。ひ。よ。も。れ。の。敵
あり。それ。ば。一。是。と。死。よ。心。と。残。さ。ば。生。食。と。心
ぐり。し。生。ぐ。り。に。あり。こ。こ。され。が。あ。は。く。士。僅。討
き。うち。お。行。細。川。越。申。ち。忠。利。の。人。殺。よ。ハ。討。死。二
百。七。十。余。人。多。負。れ。士。卒。子。八。百。ち。六。人。と。志。田
右。衛。の。疾。患。之。れ。家。人。討。死。二。百。十三。人。多。負。子。六
二。人。多。負。三。百。五。十五。人。同。其。食。第。志。田。市。正。家。人。
討。死。十。六。人。多。負。百。五。十六。人。禍。將。佐。濃。ち。勝。義。九。人。
小。討。死。百。六。十。多。負。六。百。八。十三。人。主。馬。云。ヤ。久。毛。豊
氏。家。人。討。七。十八。人。多。負。百。八。五。人。立。荒。雞。彈。ち。の。豊

敵衆八百討死百七人全員三百而七十九人松倉長門
當猪家友人討死七人全員九十七人小笠家
友近古支家友人討死九十八人全員二百三人同後流當
家賴の人凡八百討死十九人全員凡者百四十八人。松
平丹後守友人討死三十一人全員而四十七人。水野
日向守友人討死百六人全員三百半二人。
寺次兵庫以忠高家友人討死九人全員三
百十八人。高麗人討死百九十九人全員
三百八人。戸田左門友人討死百人全員九人
三十餘人。松平信重家友人討死九人。討
死六人。高麗人討死一百三十人。都合
死士員九士僕とも。平八十六人。計之
ひ。も。不。軍。使。士。諸。室。人。討。死。多。一。や。り。と。も。難
ち。も。死。よ。わ。よ。り。ば。ま。と。と。か。う。人。數。万。九。者。ど。も
か。や。う。に。一。心。不。亂。よ。死。と。も。と。あ。り。ひ。き。内
キ。も。う。そ。意。趣。ハ。上。右。が。わ。そ。未。代。み。と。類
す。す。か。そ。一。事。を。そ。と。あ。り。

五

山田右湯の作万死とも一生を得ら事

今亡数万の有利より丹に申ふ。山田右湯の作とも
 ひ者。が人の死と脱一命を起ふるゝる。
 彼右湯の作方覺人の勝を。徳學派專よ國体
 通達。奴者と風せやう。かきる衆れ故本丸
 は昔にあ人の民首あり。右湯の作心よがの下
 やうがのふ天下と引うけ。かく一揆と殺す事。
 懸天あんぞあくしんや。潔理とよりて偏て民
 衆へ忠列れらぬと保ち。蘆陽守旬の所
 そむゆせて。忠のもの。その毫を上向よら熱
 山田右湯の作よ活頃。八万軍あり。主をもて躰



弟進は吉利ら舟より一かども侵嘗事等との發
揚より前日と御蓑笠仕ちる力あり。御蓑笠ひげ集
て。く々民家へ深志と爲奉者どりより。かく
かうへ城家とあま御僧怪め。時日と遙れ。
御若文と奉奉らば。吾より勢八而よ人難事由ふえ。
隊中は漏屋よりとうけ。皆く御隊へありはべ。
又幕内は漏屋が正赤隊へをゆきそ。まか、隊へまふ
さひめて小船よりあせ。轍軍隊と生捕て。御患難
れを一と御室蓑笠隊より私處とく。小
船丈と用意侍りを置ひ。あ細矢又よ認
め。有馬左衛門作持口へ射たり。されば寄。先
者とも是とどう。否ぐそ御目代は被取物と。但縮
見と被見をと。時に御將より會食あ
つて。由ひそく小御さうとうくあり。されども
は者隊中第一の医首ときこゆる。小難心と
ぐり。思ひ。定てかく人等鰐鮑のせあり。
定しに候。御の行あるべく。まよ御許用
あらう。山田黙止がくあり。重多、まゆへ
深志れ意趣と。御社は牛玉と裏反。儀南面別
れ蓑衣と着哉。そひそかく又株をうかべ
何う縁わくんと。儀多れ時角と御さざめもそ
ひそく。かほき。まよふら趣と夫々よ射させ
されば隊中はまよふ時れ運やほよかう。山田
景をかうじて。折節夜廻の歎索捨ひう。

是鳥みかくと告よき。時貞大夫トモヒロシタツとあどう。さう
ちくに至る。一向比吉利ヒヨリヒと丹波タヌミをすりて。かく
ゆべとぞ知りざりき。ものもあれどよ。又
りうみんをとふすよ。天帝アメノミコトは冥殿ミンデンあり。ほ
そそ、やがて右馬ウマの城シテをめぐらし。かまつらう。あ
一族イチヅク鳥トリと。をも蕩ハラカかわゆく。殺害スルす
山田ヤマダはひよき。因ウニへまろ細スジ。まびす。も助アシが
けやえ。大内オシナの謀アフク難ハラカよろび。と入きて。とを
三姫ミホとも是鳥トリ城シテ中ノミれ民首ミンスをちらす。ば矢
丈シタの躰コトコト近アツシキる民家ミンガのり夜ヨ討ハシメ。時候シキある。持ハ
と後アフタりて。ハ中ハヂと大事オシギ。一ゆがしん。ふ
く。豊國ヨウコクと。べつゆて。是鳥トリ城シテ中ノミ人ミンより奉
行ヨウリと指副シブサムライて。三而余ミナマツ人ミン。一。城シテ中ノミと。り
うせ持ハサウ心ハラハラれ。まき。小用コトハシと。やぞき。こ
へき。かく。事ハシメ。あよ。城シテ中ノミも。永ヨウ陳ミン。報ハサウ
き。薦ハサウ人ミン。すと。あふ。う。御ハサウ事ハシメ。ども御ハサウ
事ハシメ。じ者シヨウ。せ。じ。城シテ中ノミ人ミン。中ノミ
あ。こ。そ。一。じ。者シヨウ。せ。じ。城シテ中ノミ。事ハシメ。ども御ハサウ
事ハシメ。う。う。小。行ハサウ。じよ。よ。ジ。済ハサウ。よ。の。よ。に。吐ハサウ
と。ち。や。城シテ中ノミは。鏡カミ。と。鏡カミ。報ハサウ。薪ハサウ。盡ハサウ。て。御ハサウ
あ。ひ。由ハサウ。と。云ハサウ。ま。そ。又。山田。左。馬ウマ。作ハシメ。と。云ハサウ。者シヨウ。や
や。御ハサウ。う。う。れ。が。ま。ん。は。か。き。ち。本。丸。持。口。れ。つ
し。う。あ。人の。肉。と。人。殺。八。百。よ。人。死。大。將。侍。者シヨウ
み。く。ひ。う。是。ハ。寢。も。心。も。う。れ。由。あ。う。り。わ。く。山
田。一。門。と。く。金。あ。時。よ。殺。害。だ。き。右。馬。伝

とも謀とべきの由アリ定ひへど。時貞因ベキ事
細シとて。銀鑄もしく大それ菴舍と義以と
アリと。上使との間で届。シテかきハま
実味方忠列の者あり。アリ。あゝれ助金下さ
かう。キ。アリ。アリ。されど。さそくぬむ處
落アリ。山田ヶ運や。よう。うん。日敷カ。アリ。
不恩儀よ。廣域もと。アリ。二月廿八日に。金捕の
一揆の中。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
多。御用代御拂んじて。右房の作に奉れ。アリ。ア
リ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

言より。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
害を。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
中に。天命の惠。アリ。山田一人虎口。アリ。ア
リ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

六

寢食八人數房陳之事
付松倉兄弟流刑之事

吉極又有馬比歲と。とくとくを崩破半塗りに。之
代家とありふたり。斯ても多才の済軍勢。何等
も却月隊の如き皆無く。へ歸途あれども御目
代法綱氏鍵の直。よあまた弟の長崎も。へけ難進
ひ御仕置。皆執行され。すれより肥前北辰右衛
門内過へ。越き後ひ義前乃懐下。福恩の
方とや。諒あ。義前意陽噴薄んせ。一め。豊
前國小糸城。とよ著焉。かく。而り
御もこれより。又た田舎中。もる談をまか



て是と豊川小余よ著強ふ。もうがるの前
此諸將と。又豊川小余よ既に寄せて。上意
をうそとハ作もここう。モ意趣ハ。今立鷹
象もまもあれ一揆ハ。都て所守は政法
輕弱もむらゆくもきほ。何とも死刑も行毛
んばきとも懲宥と加へら里門松倉長門
とハ義作ぬへ流罪セ。從事内記へ預け
ゆ。モ食争ね倉石近さ。便故ゆへす。され
生駄壹波ちよへ預け。次よ寺伏兵庫とも
罪辭う爲き。ある。極ども流罪とせん。許め
まことわる者方に万石とす。ひよて御窮難
彈む。又み。禍の伝濃ちのれ人を。所軍法をもし
ま。罷一きる。科小役も。門も。と。あり。あ
うも。かどり。御赦免も。きこえら。されば。春の
御いきとり。御恩の。難ひろき。と。以
を。是や史記の。難よど。も。と。隸せざ。か
則ぬ。も。あそれ。と。や。おども。罪れ。う。か。ひ
と。これうちん。今。此。松倉寺伏の。死罪
案堵の。やり。い。と。の。ゆ。う。か。か。事え
う。か。か。御。敗。の。よ。は。ゆ。く。御。内。も。行。ふ
して。土農工高。よ。く。う。ま。て。あ。い。ゆ。う。に。復。セ
す。ほ。く。ま。く。延喜天曆の。聖。代。も。これより。と。ま
ト。と。そ。見。へ。

高下

三十四



4.

